

◆【海員随想】BISKRA号航海記(12) ① 元機関長 新木繁雄

4月23日(月) アビレス(スペイン) 港着

7時に目を覚まし、食堂へ行ったら、時計が8時になっていて、びっくりした。夜のうちに時計を1時間進めたらしい。スペインもヨーロッパ時間を使っているのだろう。アルジェリアから西へ行ったのだから、普通なら時計を遅らせるのが当たり前ののに。

昨日どうしても不良原因が分からなかった潤滑油清浄機を、もう一度テストしてみた。スラッジ排出が終わって、次の運転に入る時、空気作動の潤滑油入り口弁が、いきなり全開になるため、多量の潤滑油が瞬時に清浄機に入り、具合が悪くなるらしい。潤滑油入り口弁の作動空気の絞りを調節して、入り口弁がゆっくり開くようにしたら良くなった。

12時30分、スペインの大西洋側のアビレスという小さな港に着いた。すぐに、電報でアンカーシステムの修理を依頼してあった業者が打ち合わせに来た。造船所からの修理方法を、アルジェ駐在の小枝さんが代理店宛てにテレックスで送ってあった。小枝さんへ返事を送ろうと思ったが、銀行が開いていないので、マネーチェンジができず、スペインの通貨がない。銀行は午後3時に閉まるし、郵便局は午後4時に開く。不便な国だ。代理店に頼んで送ってもらう方法もあるが、いちいち船長に説明しなければならぬから面倒だ。アンナバで曲げたデレックの修理に、5日ほどかかるらしい。

夜8時過ぎから積荷が始まった。日本向けの鉄板だ。世界最大の鉄鋼会社が日本にあるのに、スペインから鋼材を輸入しているらしい。物の流れは難しくて分からない。

機関長の奥さんと娘は、入港と同時に国へ帰ったそうだ。モンテネグロの地震が気になって、早く帰りたかったのだろう。

4月24日(火) アビレス停泊

ダイハツからロンドン駐在の森川さん来船。発電機のトラブルについて機関長に説明してもらった。結局われわれがやっているように「ロッカーアームの潤滑油を、200時間ごとに新換えしていれば、不具合は起こらない」ということだった。

アルジェの小枝さんに、テレックスを送った。アンカーシステム修理業者を確保できたこと。デレックの曲がり修理など。

アルジェリアのエンジニア3人で、エアーコンプレッサーの弁の開放掃除をしていた。板弁のすり合わせをするのに、カーボランダム代わりに、全然使用目的が違うモリコート(焼き付き防止の塗布剤)を使ったり、全然関係のないところを念入りに磨いたりしている。無知も甚だしい。これでもアルジェリアではエンジニアなのだ。

夜、森川さんと町へ出てレストランで食事。ムール貝(イガイ)を注文したら、一人前が大きな洗面器のような器に山盛りになって出てきた。数えてみたら73個あった。ホワイトソースをつけて食べると最高においしい。これを肴にワインを飲んだ。